日本の気候区分

日本の気候は、どのように分かれ、なぜそうなるのか



南西諸島・小笠原諸島は、わくの中に移して示している。

色の境目は大まかな模式（実際の境目は県の中を通る）。小笠原諸島は色分けしていない。
季節風・海流の矢印は向きを示す模式。

それぞれの気候の特色と理由

北海道の気候 1
冬の寒さが厳しく、夏はすずしい。
梅雨がはっきりしない。

日本海側の気候 2
冬に雪や雨が多い。季節風が日本海で
水蒸気をふくみ、山地にぶつかる。

太平洋側の気候 3
夏に雨が多く、冬は晴れて乾燥する。
夏の季節風が海から湿った空気を運ぶ。

中央高地（内陸）の気候 4
1年を通して雨が少なく、夏と冬の
気温差が大きい。山に囲まれた内陸。

瀬戸内の気候 5
1年を通して雨が少なく温暖。中国山地と
四国山地が季節風をさえぎる。

南西諸島の気候 6
1年中暖かく、雨が多い（亜熱帯）。
台風の通り道になりやすい。

南西諸島の気候には、沖縄県と鹿児島県の奄美群島などが入る（はめ込みの図）。